

夏期の高温や障害不稔に強い水稻品種の開発

1 目的

近年、夏期の高温により水稻の玄米品質が低下している。一方、7月中旬から下旬の幼穂形成期間中に低温になることも度々あり、障害型冷害が発生する危険も依然として存在している。そこで、高温登熟性と耐冷性に優れた系統を現地で栽培し、地域適応性や品質改善効果を検証する。また、有望系統が保有する高温登熟性に関するゲノム領域を明らかにし、DNAマーカーを開発することにより、高温登熟性に優れた水稻品種の開発を促進する。

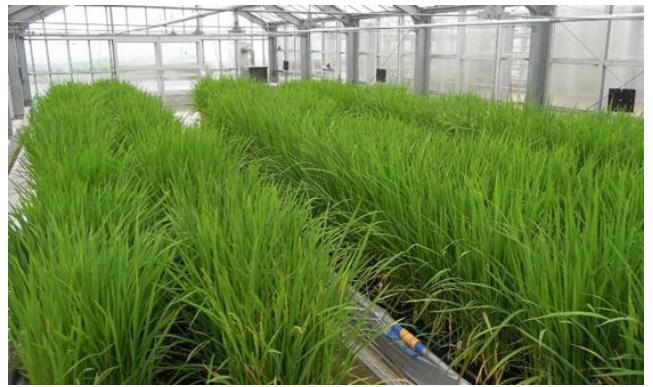
2 研究計画・試験方法等

高温による玄米品質の低下が懸念される仙南地域に現地試験ほを設置し、高温登熟性に優れた系統の収量や品質等の現地適応性を評価する。

また、DNAマーカー開発のため、「東北234号」(高温登熟性“強”)と「初星」(高温登熟性“弱”)の分離集団及び戻し交雑集団を用いて、高温登熟性に関する遺伝解析を行う。



現地試験(仙南地域)



ガラス温室における高温登熟性検定



高温登熟性の強い系統



高温登熟性の弱い系統

